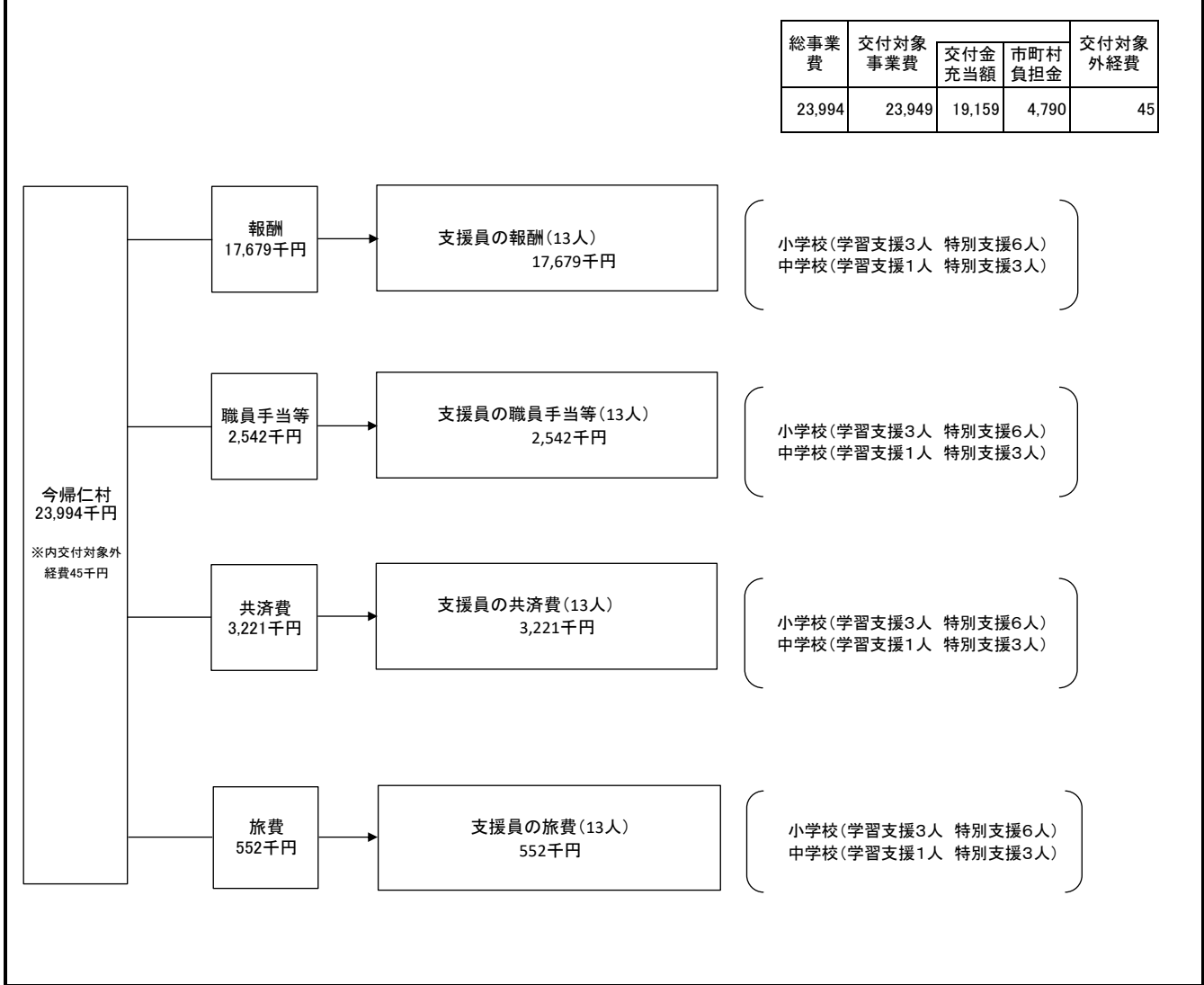


市町村名		今帰仁村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	教育環境充実事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア			
担当部署名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)			
事業内容	児童生徒に対し、個々に応じたきめ細かなサポートを行うため、小中学校にそれぞれ学習支援員と特別支援員を配置する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	33,226	23,655	19,625	24,519	23,994	
		(b) 予算現額	33,226	14,138	18,265	19,186	23,949	
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 9,517	▲ 1,360	▲ 5,333	▲ 45	
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		33,226	14,138	18,265	19,186	23,949	
	B. 執行済額		19,369	14,138	18,265	19,186	23,949	
	うち交付金充当額		15,495	11,311	14,612	15,349	19,159	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		58.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		計画に沿って事業を実施できたので適正であった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	支援員(預かり含む)の配置人数 ・小学校(学)3人 (特)6人 ・中学校(学)1人 (特)3人		目標 幼 (特)0人 (小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)1人)	幼 (特)1人 (小(学)3人(特)4人 中(学)1人(特)1人)	幼 (特)2人 小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)1人)	小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)3人)		
			実績 幼 (特)1人 (小(学)3人(特)4人 中(学)1人(特)1人)	幼 (特)2人 (小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)1人)	幼 (特)1人 小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)2人)	小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)3人)		
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明		・学習支援員は、目標どおり配置した。 ・特別支援員は、目標どおり配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	・沖縄県学力到達度調査における、県と本村との平均回答率の差		目標	()	(①-2.4P以上 ②-4.0P以上)	(①-0.8P以上 ②-7.1P以上)	(①0P以上 ②-9.1P以上)	()
	①小学生 0ポイント以上 ②中学生 -9.1ポイント以上		実績		(①+2.0P ②-10.0P)	(①-0.9P ②-6.5P)	(①+0.4P ②-8.5P)	
	対象となる児童生徒が学校生活や学習上の困難の改善を図ることができたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績		75%	100%	100%	
	進捗状況説明		・沖縄県学力到達度調査において、県と本村の3カ年平均の差は、成果目標において小学生においては、0.4P上回り、中学生においては0.6P上回った。 ・各学校に配置されている特別支援教育コーディネーター4名に対してアンケートを取った結果について、学習支援員や特別支援員の配置により学校生活や学習上の困難の改善を図ることができ、落ち着いた学校生活を送れたとの回答が100%となり、目標を達成できた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員は、各学校に1名配置が実施でき、学習支援の必要なクラスへサポートが行えた。特別支援員は、全体支援を強化するために人員確保が必要である。 ・対象児童生徒の数は増加しており(前年度31名に対して今年度50名)であるため、きめ細かい対応まで至っていない部分も見受けられる。 ・支援員の経験等により児童とのかかわり方や支援方法にばらつきがあることが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習指導については、各校の児童生徒により必要な指導方法が異なるため。各校の状況に合わせた支援を現場で調整しながら実施する。 ・各校における支援員の確保に努め、増加する対象児童数及び多岐に渡る困り感解消の為、支援員の増員を検討する。 ・定期的に連絡会及び研修会を行い、状況が改善した学校における取組を紹介するなどして、情報交換を行い、支援員のスキル向上や各校の取り組みの標準化を図る。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・各校における学習支援、特別支援をバランスよく進めるため、教師と支援員の連携を密に行い、各現場において調整しながら事業を執行する。 ・全体支援と個別支援を滞りなく行なえるように、連絡会・研修会等を実施、情報交換し各校における「今」の状況を把握する。 ・各種支援が必要な困り感が発生した現場には、支援員の増員や適正配置をはじめとしたサポート体制の調整を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援員については、ハローワークにて公募し面接決定している。学習支援においては、「教員免許の所持」を条件として定めており、適切かつ妥当な選定である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、目標は達成できたが、学校からの追加要望に対して人員の確保ができなかった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	児童生徒等の県外派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
事業内容	小、中学校の児童生徒並びに今帰仁村に所在する県立高等学校の生徒が、各種スポーツ大会や文化関係大会に参加するための県外派遣費を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2200	1,000	1,000	1,000	1,000
			1050	1,000	967	1,330	350
			▲ 1,150	0	▲ 33	330	▲ 650
			0	0	0	0	0
			1,050	1,000	967	1,330	350
	B. 執行済額		1050	894	967	1,330	398
	うち交付金充当額		840	715	774	1,064	318
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	89.4%	100.0%	100.0%	113.7%
予算の状況の説明		新型コロナウイルスの影響により各大会の中止、延期があった為予算を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	小、中学校の児童生徒並びに今帰仁村に所在する県立高等学校の生徒が、各種スポーツ大会や文化関係大会に参加するための県外派遣費を支援する。		目標 (派遣費を補助)	(派遣費を補助)	(派遣費を補助)	(派遣費を補助)	
			実績 派遣費補助の実績	派遣費補助の実績	派遣費補助の実績	派遣費補助の実績	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		スポーツ系の派遣は、団体で5件(45名)、個人で1件(1名)計46名。文科系の派遣は0件に対しての派遣費支援である。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	県外の人との競争や交流を通じて児童生徒の視野が広がった(80%以上)を含め、本事業を検証する。		目標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績	90%	85%	97%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		派遣した46名の保護者へのアンケートの結果、46名から回答があり「県外の人との競争や交流を通じて児童生徒の視野が広がった」との回答が97%と目標値の80%を大幅に超えて達成したが、新型コロナウイルスの影響により各種大会の中止を受け全体の派遣人数が落ち込んでいる。また、文科系団体の派遣数が依然として少ない。					

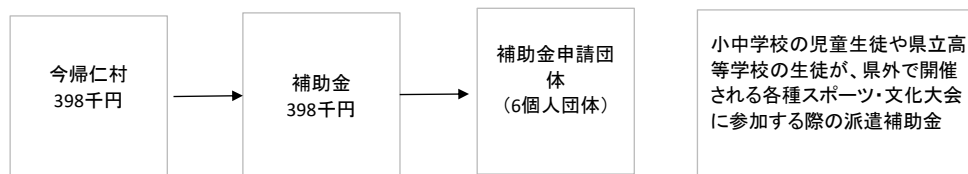
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果からR2年度事業に関して、一定以上の成果は出ているものと考えられるが他に問題点等無いか検証を要する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度に予定されていた各種大会の中止を受け本事業による派遣人数も減少している。 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大会中止もあるが、例年同様依然として文化系団体の派遣数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在のアンケート結果からみる分には満足度が高いが、アンケートの内容を見直して他に課題が無いか確認する。 村内小・中・高で活動している団体に対して情報をまとめた通知等を使って広く本事業の周知を行い、本事業の活用を促す。 村内学校に文科系部活には、主に学校を通しての周知を図っていたが、今後はさらに広く周知徹底を行うため、村広報誌への情報掲載等の対策を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・アンケートの調査項目を見直して新たなフォームを作成、また自由記述箇所として「今後の改善点」等を追加することで課題の抽出を図る。
 ・村内学校はもとより、学校以外で活動している村内児童生徒に周知するため各種団体への呼びかけを行い、村ホームページ、村広報誌にも定期的に情報を掲載、更新して目に付くようにする。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
775	398	318	80	377

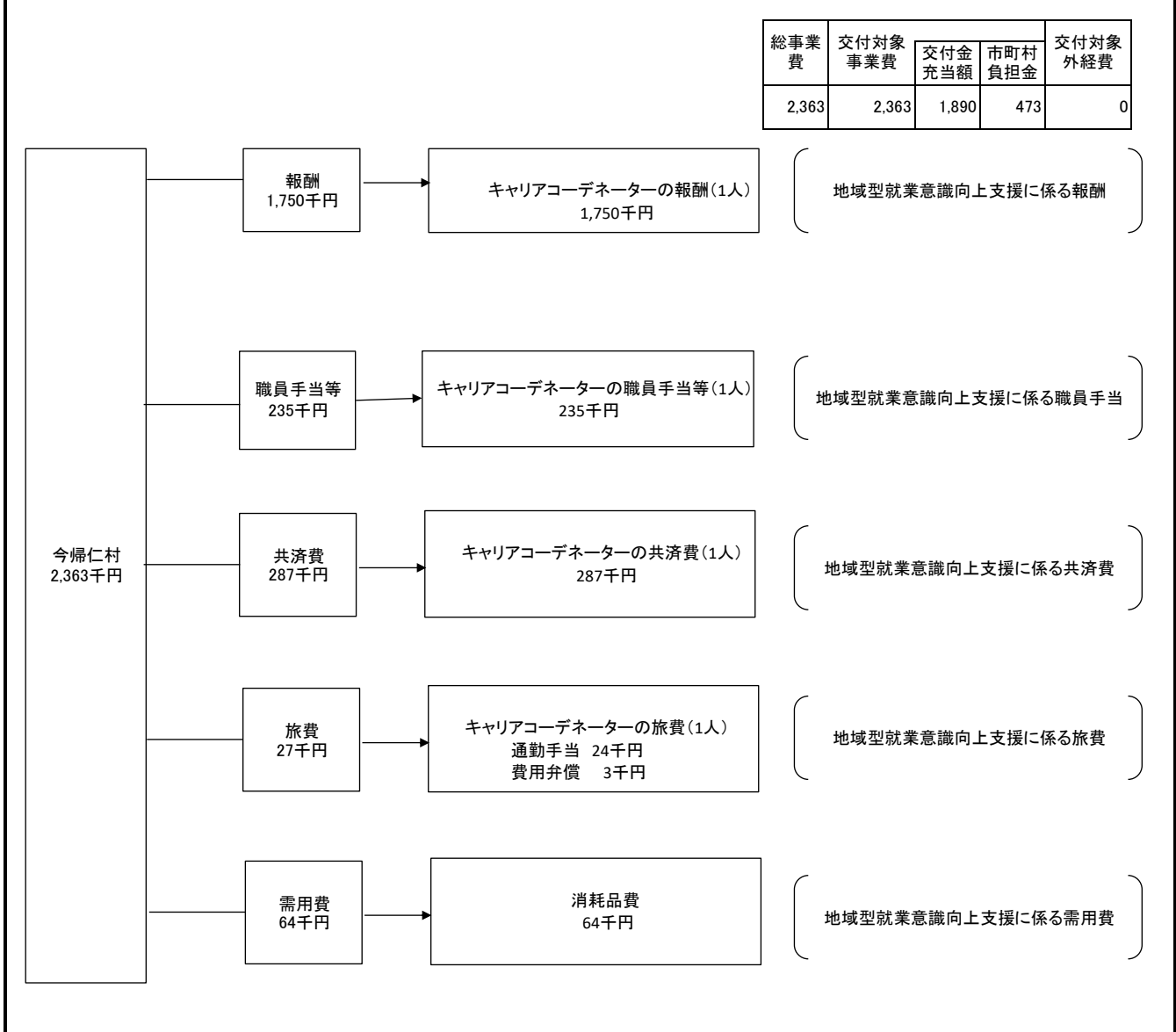


資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各団体の申請に基づき審査を行い、選定を行っているのが妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用は発生しておらず、予算規模は適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金要綱に基づき航空運賃の補助(補助率1/2)を行っており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用、使途についてはその大会実績による派遣費補助の観点から必要なものであり適正である。

市町村名	今帰仁村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	地域型就業意識向上支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-イ	
担当部署名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の雇用推進	
事業内容	農業が基幹産業の本村にとって高校卒業を機に村外へ出る生徒が少なくない。地域の良さを再認識・再発見し新しい時代・環境に適応できる人材を育成する為、各校の授業カリキュラムと関係団体や地域人材と連携を行い、以て将来地域貢献・社会貢献できる人材の育成に努める。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	年度	年度	年度	年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,233				
			2,363				
			▲ 1,870				
			0				
			2,363				
	B. 執行済額		2,363				
	うち交付金充当額		1,890				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		教育ファーム事業、プロデューサー育成事業、県外インターシップ事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて感染拡大防止の観点から中止としたため、当初予算から1,870千円の減額が生じたがキャリア教育コーディネーター事業については計画どおりに執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	年度	年度	年度	
	キャリア教育コーディネート(通年)	目標	(1,800名)	()	()	()	
		実績	3,368名				
	キャリア教育に係わる講演会	目標	(2回)	()	()	()	
		実績	0回				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
		目標	()	()	()	()	
		実績					
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育コーディネート(通年)は、本事業が村内小学校において認知度が上がり、また新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて削除したプログラムの補填も含めて実施した結果として、目標の2倍近い通算3,368名の実績となった。 ・講演会は、コロナウイルスによる影響で講師や場所の確保ができなかった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	年度	年度	目標値(年度)
	就業に対する意識が向上したか(80%以上)を含め、各プログラムに参加した児童生徒に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	()	()	()
		実績		100%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの参加が最も多かった今帰仁小学校5年生54人の対象に54件のアンケート結果について、就業に対する意識が向上したとの回答が100%となり、目標を達成できた。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・講演会の開催を始めとして、新型コロナウイルスの影響を受けて予定していた事業を行うことができなかった。</p>	<p>・安心安全に事業を行うため新型コロナウイルス等の感染防止対策を含めた安全対策の強化として、①マスクの着用・手洗い・うがいの徹底、②課外授業でバス乗降時の消毒、換気の徹底、③屋内での対応時の3密回避の徹底を図る。 ・R2年度実施を断念した講習会や交流会・講演会等においてWeb会議を活用した事業の実施について検討する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・各校の児童生徒学年により必要な指導方法が違うため、各校の状況に合わせた取組のサポートを継続し実施していく。 ・児童生徒の就業における意識の向上やスキルの向上に取り組み、新しい環境で適応できる人材を育成するため、実施予定事業の精査を行う。 ・3密を避けるなどの基本的感染対策・安全対策や新たな生活様式を取り入れながら事業推進を行う。 ・Webを活用した事業の実施に際して、各校におけるインフラ等の調整を行いながら無理のない範囲で実施する。</p>		

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

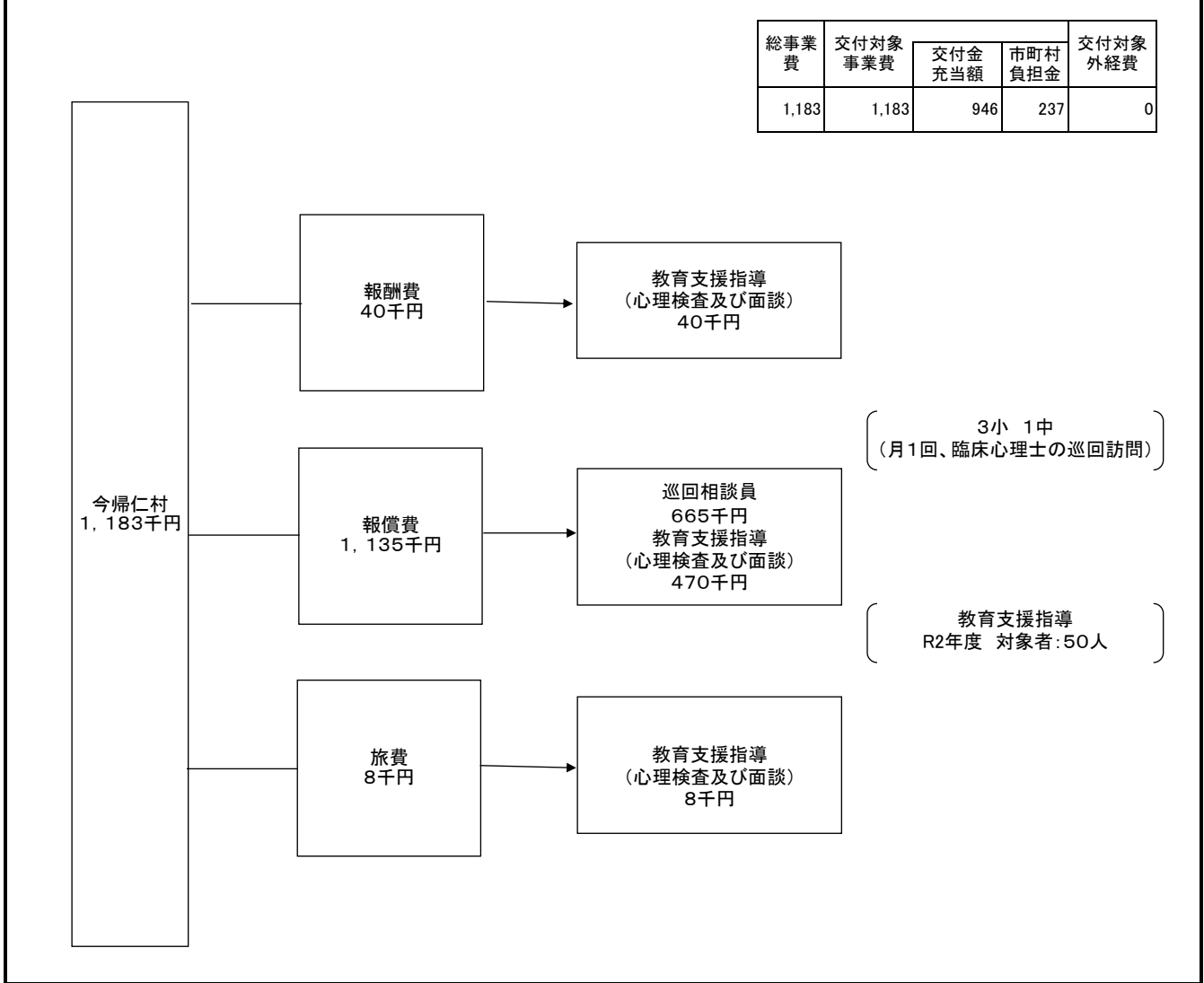


資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○見積価格などを踏まえ支出先を選定しているため妥当である
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業に必要なものに限定しているため適正な規模である
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	教育支援整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-5-(3)-ア	
担当部署名	学校教育課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	特別支援教育の充実を図るため、村内小中学校において臨床心理士による巡回相談の実施や教育支援指導員による対象児童生徒の心理検査を実施し、障害を有する児童生徒に対する支援の強化を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	R2年度	年度	年度	年度	
		(b)予算現額	1,283				
		(c)増減額(b-a)	1,183				
		(d)繰越額	▲100				
		A.計(b+d)	0				
		B.執行済額	1,183				
	うち交付金充当額		946				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	予算の状況の説明		当初見込み(1,183)より検査対象者が減となった為執行済額▲100となったが、ほぼ計画とおりに進めた。				
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	年度	年度	年度	
	定期巡回学校訪問(3小学校 1中学校) 回数:原則1校あたり月1回(3h)年12回	目標	(小36回 中12回)	()	()	()	
		実績	小38回 中12回				
教育指導検査 内容:対象となる児童生徒の心理検査及び面談。 回数:心理的検査55回、保護者面談30回	目標	(検査55回 面談30回)	()	()	()		
	実績	検査42回 面談56回					
達成状況説明	・臨床心理士及び教育指導検査員を派遣し、学校生活への不適応や対人関係で問題が生じている児童生徒に対して支援を行った。 定期巡回相談は、臨床心理士が3小学校、1中学校に月1回学校訪問を行い特別な支援が必要な児童生徒へ面談を行った。学校側から追加希望があり目標回数より2回増の実績となった。 ・教育指導検査は、対象となる児童生徒の心理的検査及び面談を行った。前回検査から2カ年以内の対象者は、面談審査のみ実施し、検査を実施しなかった為、検査回数減(13回)となり面談回数が増(13回)となった。また、R2年度当初に予定していた面談希望(13回)があったため実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	年度	年度	目標値(R5年度)
	対象となった児童生徒のうち、問題の解消や症状が改善したと判断した割合(61%以上)を含め、養護教諭や特別支援員へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標	() (61%)	()	()	()
			実績	75%			
	【参考指標】 問題の解消や症状が改善したとの判断は過去の実績参考に設定。直近3年分の平均値を上回ることを目標に61%以上と設定した。 H29:対象89人 改善59人 66.3% H30:対象88人 改善55人 62.5% R1:対象80人 改善43人 53.7% 平均61% R2:対象50人 改善32人 64.0%		目標	() (61%)	()	()	()
		実績	64%				
進捗状況説明	・対象となった児童生徒のうち、問題の解消や症状が改善したと判断した割合の目標値は61%以上としたが、4名に対して4名の回答がありアンケート結果は75%が改善したとの回答であり目標値を上回った。 ・対象となった児童生徒のうち、問題の解消や症状が改善したと判断した割合は、過去の実績を参考に直近3年分の平均値を上回ることを目標に61%以上としたが、実績では64%が改善したと回答があった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士による巡回相談(月1回3時間)について、各学校からは月2回の要望が出ているが予算の関係上、毎月2回の対応は難しい。 教育支援指導員による対象児童生徒の心理検査を実施しているが、臨床心理士の資格保持者は村内で1人であり、村内から確保することは難しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校から要望がある臨床心理士による巡回相談の回数の増については、月1回及び各学校3ヶ月に1回程度追加の巡回相談を行うことで改善を図る。 近隣市町村の教育委員会等に、臨床心理士資格保持者の教育指導員についての情報提供を求め、また紹介してもらえるように呼びかけを行っている。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士による巡回相談は月1回3時間を実施することを目標とするが、臨時的な対応について各学校と密な調整を行いつつ取り組んでいきたい。 臨床心理士資格保持者については、今後も近隣市町村に情報収集を行いつつ確保に努める。 教育支援指導員による心理検査の実施及び面談、就学先決定後のフィードバックの充実を図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

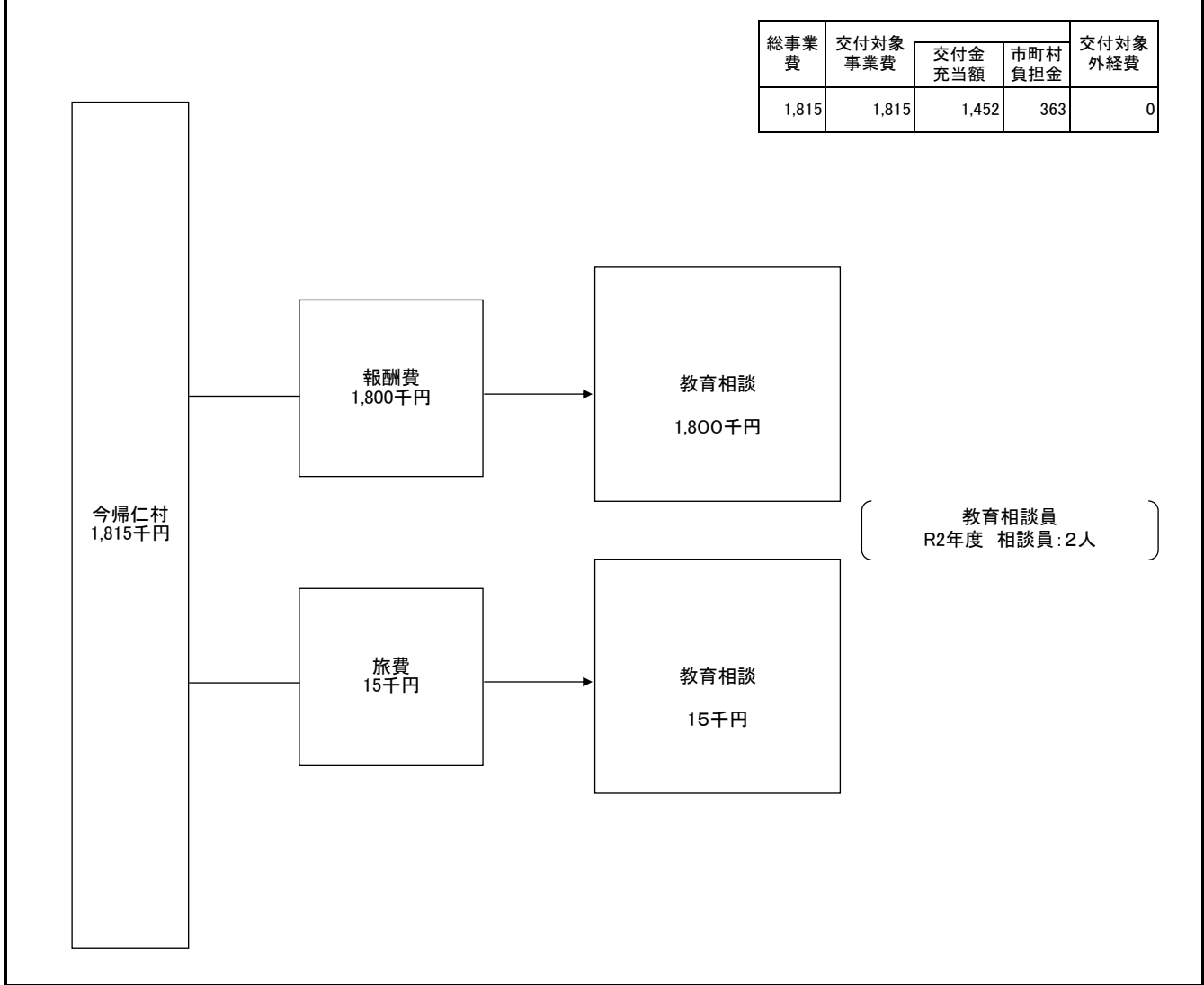


資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○専門職へ今帰仁村教育委員会が選考・委嘱しているので、妥当であったと考えている。 ○不用額はなしであり適正な規模であった。 ○費目、用途については額の確定時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	教育相談事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-5-(3)-ア		
担当部署名	学校教育課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	村内各小中学校と連携し、今帰仁村教育委員会に相談室を設置し不登校や問題行動等を抱える児童生徒や保護者を対象とした相談を受け不登校改善に努める。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	年度	年度	年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	1816				
		(b)予算現額	1815				
		(c)増減額(b-a)	▲1				
		(d)繰越額	0				
		A.計(b+d)	1,815				
		B.執行済額	1815				
		うち交付金充当額	1452				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	当初見込み(1,815)ほぼ計画どおりに進めた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	年度	年度	年度	
	教育相談事業 今帰仁村教育委員会へ教育相談員を配置する。	目標	(2人)	()	()	()	
		実績	2人				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	今帰仁村教育委員会へ教育相談員を2人配置した。基本的に相談員は週3回の午前中勤務とし、月曜は2人体制、火、水、木、金については交代で出勤することで毎日相談室に相談員を配置することが出来、不登校や問題行動等を抱える児童生徒、保護者の受け皿となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	年度	年度	目標値(年度)
	不登校児童生徒の復帰率:4.0%以上	目標	()	(4%)	()	()	()
	保健室、図書館、教育相談室等へ登校し教室復帰できた割合:4.0%以上	実績		6%			
	【参考指標】 過去の実績参考に設定。直近3年分の平均値を上回ることを目標に3.1%以上と設定した。	目標	()	(4%)	()	()	()
	3年間の平均 3.1%	実績		6%			
進捗状況説明	対象となった児童生徒の学校又は教室に復帰した割合を算出し、過去3年間の割合の平均値を上回ることを目標に4%以上としたが、実績では21名中2名が復帰して6%の改善した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	不登校や問題行動等の課題を抱える児童生徒や保護者を対象にカウンセリング等による支援を行い教室復帰を図っているが、相談員が訪問時に不在(居留守)である多いことが課題となっている。	一ヶ月以上面談不在(居留守)の対象者については、学校の生活指導の先生と連絡調整を行い連携を取って対象者を訪問する。
	今後の取り組み方針	
各学校の校内支援会議に参加し、相談員と担当の教諭とで連絡調整をいっつつ、連携して実施する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○多年に渡り、地域でのボランティア活動を行い住民との密接なつながりを持つ方を選定して相談員の委嘱をしているので、妥当であったと考えている。 ○不用額はなしであり適正な規模であった。 ○費目、使途については額の確定時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		今帰仁村										
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2-①		環境保全美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ						
	担当部署名	経済課、建設課、住民課、社会教育課		事業実施(予定)年度	平成24年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の強化					
事業内容		<p>・本村の観光拠点である今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化作業を実施し、観光客の受入体制を整える。</p> <p>・地域環境の保全、地域住民及び観光客の安全と誘客を図り景観を保全するため、村道を中心として不法投棄のパトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の対策を強化する。</p>					Ⅲ-1-(1)					
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)										
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()											
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		
		(a) 当初予算額	27,668	23,747	30,050	34,762	32,409	(b) 予算現額	27,666	24,830	32,264	35,762
	(c) 増減額(b-a)	▲2	1,083	2,214	1,000	▲849	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	27,666	24,830	32,264	35,762	31,560	B. 執行済額	27,666	23,615	32,264	26,577	30,311
	うち交付金充当額	22,132	18,892	25,811	21,261	24,248	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	95.1%	100.0%	74.3%	96.0%	予算の状況の説明 ・今帰仁グスク周辺の草木の成長スピードに対応する為作業員の増員(3名)を行い、人件費に係る予算の増額(1,132千円)を行った。 ・危険木については、山間部等に宿泊施設が増えたことから観光ルートも増え、委託費に係る予算の増額(420千円)を図った。 ・年度当初は昨年度病気で退職した作業員の代替が見つからず、職員手当や人件費に係る執行残が生じた。 ・天候の関係で美化作業が行えなかった日もあり、報酬等において一部執行残が発生した。					
	活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況								
		今帰仁城跡及び観光地の美化及び観光ルートの美化を行う。		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		
				目標	(美化作業の実施 景観保全の実施)	(観光地の美化 作業の実施)	(観光地の美化 作業の実施)	(観光地及び観光ルートの美化作業の実施)				
		実績		美化作業の実施 景観保全の実施	観光地の美化作業の実施	観光地の美化作業の実施	観光地及び観光ルートの美化作業の実施					
目標		()	()	()	()							
実績												
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)					
	【成果目標】今帰仁城跡及び観光地等の美化を行い、観光地として魅力的な景観が確保されているか(80%以上)を含め、観光客等に対するアンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()				
実績			84%	81%	85.3%							
目標		()	()	()	()	()						
実績												
進捗状況説明	観光客等に対するアンケート調査の結果、新型コロナウイルス感染症の影響で入域観光客数が減少したこともあり回答数は35件と少ないが、内「観光地として魅力的な景観が確保されている」との回答が85.3%となり、目標を達成した。											

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 夏期は草木の成長速度が速いため、美化作業箇所が他の時期に比べて増加する。 悪天候が続くと美化作業が遅れ、当初計画していた日程等にズレが生じる。 観光客が訪れる場所の増加によって、ごみのポイ捨て(量・場所ともに)が増え、除草も含めて全体的に作業箇所が増えている。 アンケート調査においては、観光地にアンケート用紙を設置していたが、回答が得られず、観光客に直接協力を依頼したが、まだまだ回答数が少ない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期の草木の成長速度を見込んだ効率のよい作業日程・計画を立てる。 観光ルートを正確に把握し、不法投棄等パトロールや投棄物回収・処理をより強化していく。 作業箇所については、地域住民からの情報を集めて、選定の参考にする。 アンケート調査においては、観光地に多くの観光客が訪れる時期に直接アンケート回答の協力依頼を観光地の各商店等で実施する。アンケート用紙の設置については、観光客の目につく箇所等設置場所の変更等の検討が必要である。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 美化作業箇所の増加に対応し、観光地として魅力的な景観を保つため、必要な作業員数の確保、効率的な作業日程を構築し計画的な実施を図る。 地域住民や区長等からの情報収集によって、正確な観光ルートの把握及び作業箇所の選定を行い美化作業を効率的、継続的に実施する。 プランターの設置に伴い、季節に合わせて計画的に花の植え付けや管理を行う。 成果目標の評価に係るアンケートについては、現在設置している箇所のみでなく村内各所(宿泊施設や民泊等含む)に設置して広く集める事ができるようにする。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
30,311	30,311	24,248	6,063	0

今帰仁村 30,311千円	報酬 17,539千円	会計年度任用職員 15人	(環境保全美化推進に係る報酬)
	職員手当 2,260千円	会計年度任用職員 13人(2人対象外)	(環境保全美化推進に係る期末手当)
	共済費 3,138千円	会計年度任用職員 14人(1人)	(環境保全美化推進に係る共済費)
	旅費 447千円	会計年度任用職員通勤手当 13人(2人対象外)	(環境保全美化推進に係る通勤手当)
	需用費 3,486千円	燃料費 1,187千円 消耗品費 2,300千円	(環境保全美化推進に係る需用費)
	使用料 1,784千円	重機使用料 248千円 車両リース 1,534千円	(環境保全美化推進に係る使用料)
	役務費 34千円	家電リサイクル代等	(環境保全美化推進に係る役務費)
	委託料 1,365千円	危険木の伐倒	(環境保全美化推進に係る委託料 ※ハブ等販売手数料(雑入:△343千円))
	原材料費 90千円	道路補修材料(砂)等	(環境保全美化推進に係る原材料費)
備品購入費 168千円	刈払い機等	(環境保全美化推進に係る備品購入費)	

資金の流 点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○見積価格などを踏まえ支出先を選定しているため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業に必要なものに限定しているため適正な規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	観光力基盤強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所				
担当部署名	総務課、経済課、建設課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和3年度				
			沖縄振興基本方針該当箇所				
事業内容	今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊 北山の風」、今帰仁まつり、ハーリー、桜まつり、いいなまつり等の実施に対して補助する。また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産業の活性化につなげる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	(a) 当初予算額	18,000	13,705	17,800	17,800	22,962	
	(b) 予算現額	22,053	13,705	17,788	16,223	2,000	
	(c) 増減額(b-a)	4,053	0	▲ 12	▲ 1,577	▲ 20,962	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	22,053	13,705	17,788	16,223	2,000	
	B. 執行済額	22,053	13,705	17,788	16,167	2,000	
	うち交付金充当額	17,641	10,964	14,230	12,933	1,600	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	99.7%	100.0%	
予算の状況	・新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて「現代版組踊 北山の風」は、オンライン配信等を活用しながら事業実施、執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	現代版組踊「北山の風」(11月・2月)	目標	(10月(2回)・3月(2回))	(8月・11月・2月)	(11月・2月)	(11月・2月)	
		実績	6月・7月・10月(2回)・3月(2回)	10月(2回)・2月(2回)	10月・2月	3月	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
		目標	()	()	()	()	
		実績					
		目標	()	()	()	()	
		実績					
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	・【現代版組踊「北山の風」】11月・2月に定期公演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて3月にオンライン配信のみの公演を行った。公演の回数は活動目標を達成する事ができなかったが、今帰仁村をPRすることはできた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	現代版組踊「北山の風」 来場者数:1,200人	目標	()	(1,400人)	(1,300人)	(1,200人)	()
		実績		1,145人	1,076人	600人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	・【現代版組踊「北山の風」】11月・2月の定期公演が実施出来ず、3月にオンライン配信を1回行った。成果目標は2回公演の来場者数で設定している為、1回辺りの来場目標は600人となる。今回、オンライン配信のリアルタイム閲覧者数は600人となり目標達成となった。また、公演動画を動画配信サイトで公開し、3月末時点で閲覧数は2,000回を超えている。						

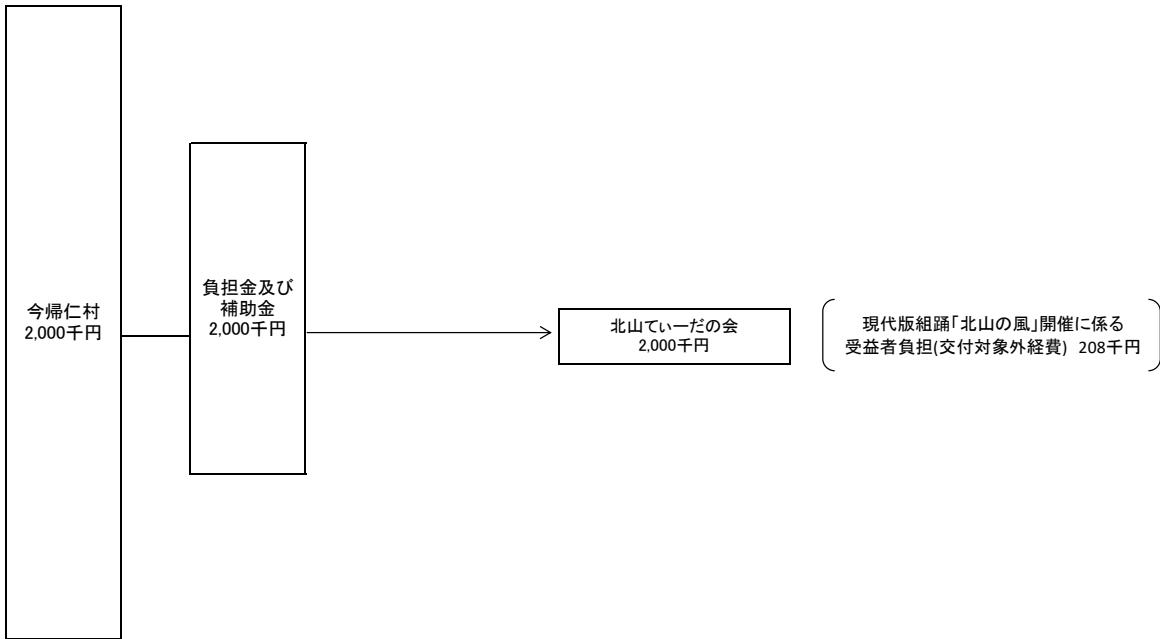
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・【現代版組踊「北山の風」】 新型コロナウイルス感染症の影響で、県内各種イベントが中止となり村のPRが十分に行えなかった。オンライン配信等を利用して新たな生活様式に対応した活動を試みたがPRが不十分であり、ライブ配信時は閲覧者が想定以上に伸びなかった。</p>	<p>・【現代版組踊「北山の風」】 新たな試みとして実施したオンライン配信は今後もPR活動の一環として続けつつ、会場での公演についても感染症防止対策等について検討を要する。</p>

今後の取り組み方針

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、計画していた6事業の内1事業のみ形を変えて行ったにとどまった。次年度からは「withコロナ」も視野に入れて事業の実施について検討を重ねる必要があると感じている。基本的な感染対策のみでなくオンライン等を含めて新たな生活様式に合致する形での実施方法についても検討していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
2,208	2,000	1,600	400	208



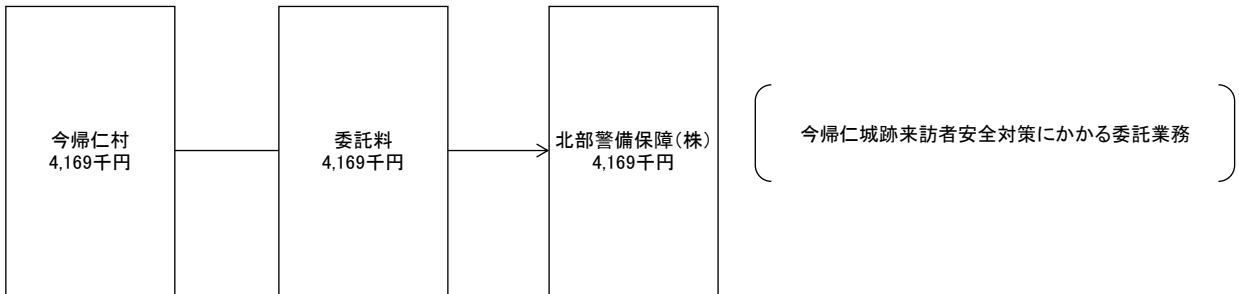
資金使途の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○イベントを開催する実行委員会に限定し、選定を行っており妥当な選定だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、各実行委員会でのイベントに見合った適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金については、各実行委員会において、事業費の一部を負担しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○各イベントの事業目的達成の観点から、費用額及び使途については必要なものであり、支出は適正であった。

市町村名	今帰仁村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	観光地安全強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部署名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全確保を図るため、繁忙期及びイベント時の車両誘導及び駐車場、横断歩道等に交通整理員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,276	5,742	5,665	4,189	4,189
			5,130	5,742	6,612	3,489	4,169
			▲146	0	947	▲700	▲20
			5,130	5,742	6,612	3,489	4,169
	B. 執行済額 うち交付金充当額		5,130	1,383	6,612	3,489	4,169
			4,104	1,106	5,290	2,791	3,335
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	24.1%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明	新型コロナウイルスの影響で来場者数の減少はあったが、車両の往来は例年並みと予測して業務を委託した。予算内の適正な執行が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	繁忙期(12月～2月)に今帰仁城跡の駐車場及び横断歩道に交通整理員を配置する。	目標	(交通整理員の配置4人 城跡来訪者の安全対策)	(交通整理員の配置(12月～3月))	(交通整理員の配置(12月～2月))	(交通整理員の配置(12月～2月))	
		実績	交通整理員の配置3人 城跡来訪者の安全対策の実施口	交通整理員の配置(12月～2月)	交通整理員の配置(12月～2月)	交通整理員の配置(12月～2月)	
	目標	()	()	()	()		
実績							
達成状況説明	新型コロナウイルスの影響でイベントはほとんど中止となったが、屋外での城跡観覧や桜鑑賞を目的とする県内内容が増加した。繁忙期である12月～2月に今帰仁城跡の駐車場及び横断歩道に交通整理員を配置し、概ね目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	交通整理員が配置された箇所における事故件数0件	目標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
		実績		0件	0件	0件	
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	世界遺産である今帰仁城跡を訪れる観光客の安全確保を図るため、交通整理員を配置することにより、配置箇所における事故件数は0件となり、目標を達成した。新型コロナウイルスの影響でイベントがなくなったことから、昨年度の仕様書と比較し週末の交通整理員の人数を減らした。また、混雑を避け平日に来場する方が増える見込み、配置期間を繁忙期間中の連続した65日間とした。						

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・今帰仁村へ長期間、複数員を派遣できる警備業者が限られている。また、今帰仁城跡が繁忙期となる桜の次期(例年1~2月)はプロ野球キャンプ等の他イベントと時期が重なり、警備業界の人手不足もあって、当該事業で必要とする交通整理員数を派遣できる委託先を見つけることが難しい状況にある。 ・新型コロナウイルスの影響で、来場者の属性に変化があった(インバウンドから国内・県内容が主となった)。これにより、大型バスを利用したツアーが減り、レンタカーや自家用車での来場が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施するイベント計画に合わせた、効率的な配置箇所及び配置人数を精査・検証する。 ・交通整理員の補助となる誘導方法の検討(誘導ルートの明確化、誘導灯・注意看板の設置)。 ・レンタカーや自家用車での来場が増加したことにより、より安全でスムーズな交通誘導が必要。
今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・交通整理員の効率的な配置場所及び配置人数を精査・検証し、必要な交通整理員を確保する。 ・園内における観覧車の誘導ルートや方法について検討し、安全に観覧できる工夫を行う。 ・本業務に従事する交通整理員は、警備業法に定められた研修を受けた者とする旨を仕様書に記載するとともに、委託業者で実施する研修時間(30時間)を考慮して、早期に委託契約を締結する。 	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,169	4,169	3,335	834	0

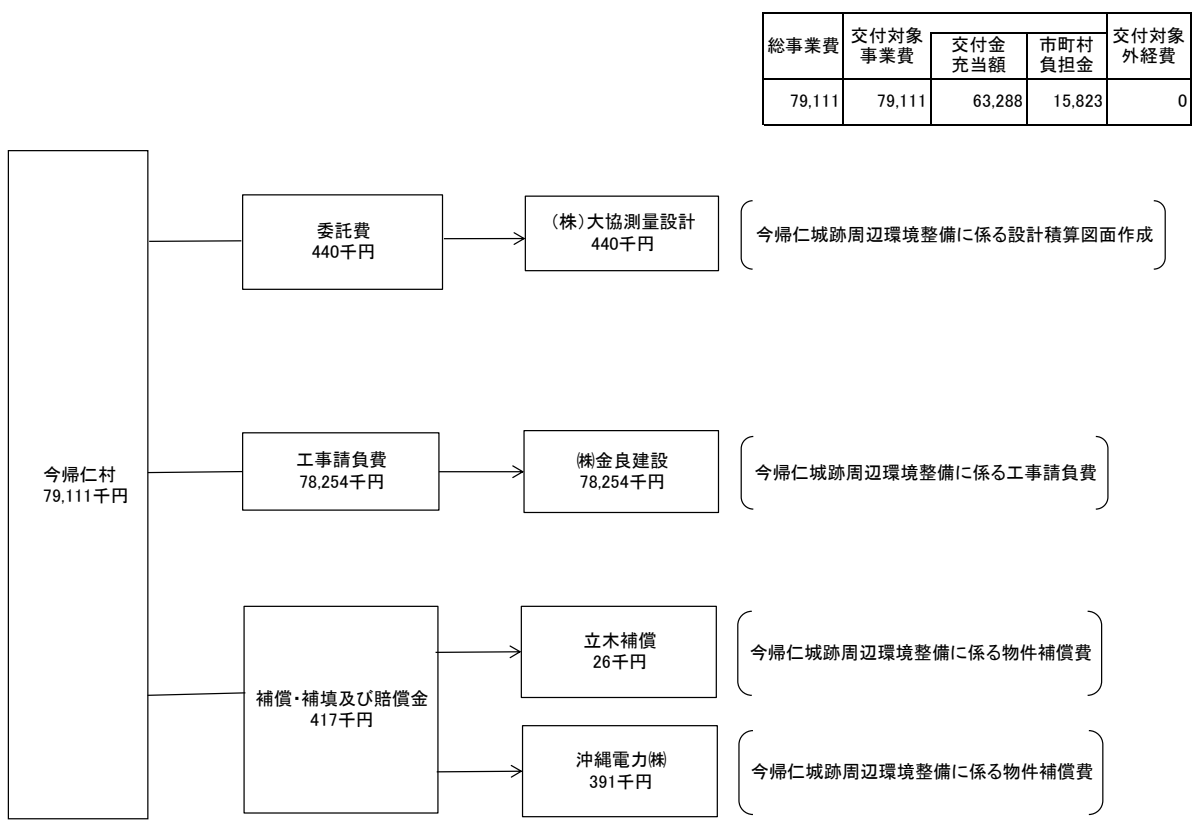


資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、北部地区で1ヵ月以上の業務が可能な業者が1社であったため、当該業者と随意契約を行った。 ○予算規模については、過去事例と比較しており、適正な規模である。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即しているものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	今帰仁城跡周辺環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	今泊集落内を流れる普通河川(今泊港川)を整備し、河川敷きなどの空間の有効活用、治水の安全度向上を図ることで、安全・安心な河川を再生し観光基盤を強化する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R1年度(R1繰越)	R2年度	
		(a) 当初予算額	55,887	35,940	130,542	-	100,000
		(b) 予算現額	51,516	29,916	130,168	-	79,111
		(c) 増減額(b-a)	▲ 4,371	▲ 6,024	▲ 374	-	▲ 20,889
		(d) 繰越額	-	-	-	58,968	-
	A. 計(b+d)		51,516	29,916	130,168	58,968	79,111
	B. 執行済額		51,480	29,916	71,200	58,968	79,111
	うち交付金充当額		41,184	23,933	56,960	47,174	63,288
	次年度繰越額		0	0	0	-	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	100.0%	54.7%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		・R1年度繰越予算は、R2年4月において完成し、執行済みである。 ・当初予定していた電力柱の移転について調整を行った結果、移転ができなくなったことから、移転補償費について減額補正(20,889千円)となった。委託費・工事費・補償費において年度内執行済みである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度		
	今泊集落内を流れる普通河川(今泊港川)の整備を行う。		目標 (整備の実施)	(整備の実施)	(整備の実施)		
			実績 整備の実施	整備の実施	整備の実施		
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		・令和2年度は、予定していた電力柱移転を実施することができなかった。河川延長1,120mのうち河川整備工事(右岸L=30m、左岸L=30m、ボックスカルバート(暗渠)設置)、委託費、立木補償費を達成することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)
	全体計画における5.3%整備(累積整備率59.9%)		目標 ()	4.7% (38.9%)	17.8% (56.3%)	5.3% (59.9%)	()
			実績	3.2% (37.6%)	16.9% (55.4%)	5.3% (59.9%)	
	【R4成果目標】魅力的な景観形成が図られたか(80%以上)を含め、観光客等に対するアンケートにより本事業を検証する。		目標				80%
進捗状況説明		・河川延長1,120mのうちR1年度繰越分河川整備工事(右岸L=190m)を実施し、全体計画における整備率16.9%(190m/1,120m)目標を達成することができた。 ・R2年度河川整備工事(右岸左岸L=60m)を第一四半期の6月内で発注することができ、全体計画における整備率5.3%(60m/1,120m)目標を達成することができた。累計延長680mとなり60.7%実施済み増減整備率22.2%(250m/1,120m)となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・本工事は、ボックスカルバート(暗渠)の設置に伴い、地盤改良を全面的に行うことから、集中豪雨、台風襲来時の仮設盛土の流出に気を付ける必要がある。 ・立木物件補償の交渉に予定より時間を要した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設盛土の流出を改善するために、地盤改良を行う箇所を鋼矢板及び大型土のうの設置を行い流出を防ぐ。 ・令和3年度から予定している右岸側は、県道115号にある既設大型標識の撤去復旧を予定しているため、関係機関との調整を早い段階で行うように改善する。
今後の取り組み方針		
<p>・今後は、令和3年度9工区間(右岸側L=45.0m)を予定していることから、4月に設計積算、5月現場説明～入札を実施し、6月初旬の工事契約を目指す。また、関係機関との調整を早期に行い、工期を年内完成に設定することで、早期着工、完成を目指す。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



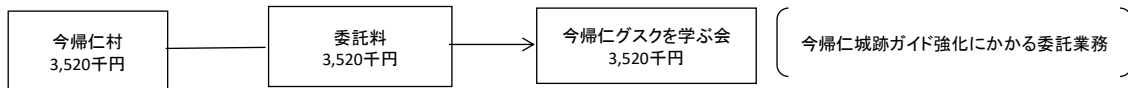
資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○工事業者に関しては、指名競争入札方式で選定し、適切に執行した。</p> <p>○予算規模については、予算内で工事発注することができたことから、適正規模であった。</p> <p>○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	今帰仁城跡ガイド強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部署名	社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界に通用する観光人材の育成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	<p>・今帰仁村には世界遺産である今帰仁城跡が所在し、「今帰仁グスクを学ぶ会」によって来場者に無料ガイドが行われている。今帰仁城跡の魅力を更に観光客へアピールしていくため、研修等により「学ぶ会」の資質向上を図る。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	3,660	3,077	3,700	3,700	4,000
	(b) 予算現額	3,660	3,077	3,700	3,700	3,520	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 480	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	3,660	3,077	3,700	3,700	3,520	
	B. 執行済額	3,660	3,077	3,700	3,700	3,520	
	うち交付金充当額	2,928	2,461	2,960	2,960	2,816	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今帰仁城跡を臨時閉城した日数分の人件費について当初予算より減額したが、補正後予算内での適正な執行が行えた。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	世界遺産・国指定史跡今帰仁城跡の無料案内ガイドの実施、及びガイドの資質向上を図るための講演会・研修会を実施	目標	(講演会1回 研修会2回)	(ガイドの実施、講演会・研修会の実施)	(無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会・研修会の実施)	(無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会・研修会の実施)	
		実績	講演会1回 研修会2回	ガイドの実施、講演会・研修会の実施	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための講演会・研修会の実施	無料案内ガイドの実施、ガイドの質向上を図るための研修会等の実施	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	<p>・ガイド実施は新型コロナウイルスの緊急事態宣言による臨時閉城及び、来場者減少の影響があり、当初目標12,100名から3,126名へ減らしたが、後半で実施件数を伸ばし目標より1,944名多く5,070名となった。 ・「ガイド養成講座」開催(11/11～12/2で5回開催延べ123名参加)、沖縄県主催の「世界遺産サミット」(10/29-10/30)へ5名参加、室内での講演会は中止し、屋外で実施できる城内植物の研修会を講師を招いて開催(参加13名)、城跡等文化財戦略ツアーの研修(参加8名)を通して、ガイドの資質向上が図られている。なお、ガイド養成講座により2名増となりガイド登録人数は39名である。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	ガイドによる案内者数	目標	()	(12,200名)	(12,400名)	(3,126名)	()
		実績		13,614名	11,362名	5,070名	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	<p>・来訪者に分かりやすく今帰仁城跡を案内することで、今帰仁城跡のPRにつながっている。令和2年度は新型コロナウイルスの影響が大きく今帰仁城跡の入園者数は77,577人と、令和元年度実績の239,250人と比べて約16万人の減となった。R2年度ガイド目標数値を、新型コロナウイルス感染症拡大を勘案して年度途中で変更(3,126名)したが、後半にガイド件数が伸び実績値は5,070名であった。 ・外部識者を招いての講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。R2年度は屋外で実施する研修会等によりガイド経験を重ね、ガイドの資質向上を図った。また、併せてガイドが自宅で学べるように学習用DVDを4種類作成した。 ・ガイド登録メンバーについて、R2年度は2名の育成を実施し39名となった。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・感染症が発生した際にガイドを実施する場合、感染対策として対応人数の適正化(1人のガイドに●人まで等)や声量の問題、飛沫防止等が課題となった。また、R2年度は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令で臨時閉園となりガイド活動を出来ない期間があった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で城跡への入園者数が減少している。</p> <p>・ガイド養成講座の実施等により新人ガイドは増えているが、ガイド高齢化(登録ガイド39人中30名(77%)が60歳以上、且つ実際に稼働しているガイドは32名、内26名(81%)が60歳以上)の問題は続いており、今後も人材発掘及び育成を推進していく必要がある。</p>	<p>・R2年度今帰仁城跡の入園者数は前年度比で16万人減少した。R3年度に入園者の増を図るため村経済課と連携し、観光客誘致活動を進める。また、3月末に購入したイヤホンガイドシステムを活用することで、声量の問題や飛沫防止等感染対策を実施する。左記感染対策で、来場者に対して安全にガイドを受けられることをPRし、案内件数増を図る。</p> <p>・村教育委員会社会教育課の主催する「ガイド養成講座」を軸にし、今帰仁城跡を訪れた本村の歴史に興味を持たれた方に「今帰仁グスクを学ぶ会」へ勧誘、ガイドメンバーの増員を図る。また併せて、ガイド長期経験者が主催する「自主ガイド教育部会」を立上げ、随時ガイドの育成を図る。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・引き続き、講演会・研修会・見学会等を実施することで、ガイド個々の案内に関する知識や経験を増やし質の向上を図る。また、ガイド養成講座を実施することで、メンバーの増員、案内実績の増を図る。</p> <p>・感染症が起こった際の活動として、Webを活用した勉強会やガイド間における情報交換、共有を図れる方法を構築していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,520	3,520	2,816	704	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者である「今帰仁村グスクを学ぶ会」は、ガイド業務について約10年以上の実績があり、業務の計画や現場の現状に詳しく、この種の業務に精通した人員を擁しており、妥当な委託先である。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	今帰仁村着地型観光推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-エ	
	担当部署名	経済課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	本村の着地型観光を促進するため、民泊事業者等の受け入れ体制強化及び誘致活動を行い、新規教育旅行民泊客の増加及びリピート校の確保を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R1年度	R2年度	年度	年度	年度	
		(a)当初予算額	0	11,727			
	(b)予算現額	7,995	14,247				
	(c)増減額(b-a)	7,995	2,520				
	(d)繰越額	0	0				
	A.計(b+d)	7,995	14,247				
	B.執行済額	7,995	14,247				
	うち交付金充当額	6,396	11,397				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%				
予算の状況の説明	計画に沿って事業を実施できたので適正であった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	年度	年度	
	受入民家を対象とした講習会	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
	専属職員の配置	目標	(3名)	(3名)	()	()	
		実績	3名	5名			
	県外での誘致活動	目標	(実施)	(実施)	()	()	
実績		実施	実施				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、当初計画していた講習会は実施できなかったが、感染症対策講習会(58名参加 出席率100%)などを行った。 ・専属職員を当初の目標以上に配置することができた。3名から5名になったことにより、通常業務を行いつつ、必須講習会の100%参加達成、民家や生徒のコロナ対策に集中でき、民泊の安全安心度を高めることができた。また、次年度以降に向け新規プログラム作成準備を行うことができた。 ・県外での誘致活動は、新型コロナウイルスの影響により当初予定していた活動が中止となったが、沖縄修学旅行オンラインフェアに参加しPRを行った。また新たにパンフレットや手引き等(22,000部)を作成し、県外の旅行社(411社)や学校(91校)へ送付を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	年度	目標値(年度)
	民泊次年度予約数	目標	()	(12,000人)	(16,000人)	()	()
		実績		15,555人	15,739人		
		目標	()	()	()	()	()
実績							

進捗状況説明

教育旅行民泊(学校)は予約を1年前に確定するため、令和2年度に予約される令和3年度の民泊の人数を成果目標としている。令和3年度の目標数値は新型コロナ前に設定された数値であるため高い目標数値となっており、予約延べ人数は15,739人で98%の達成率となり前年を下回った。内訳としては、新規51校、リピート校22校の計73校である。

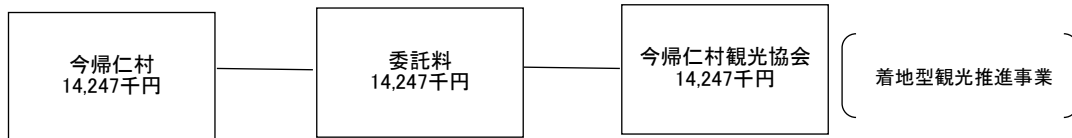
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>例年通り受入準備を行っていたが、新型コロナウイルスの影響により、前期から後期への日程変更や予約のキャンセルなど、予約取り消しの書類作成や民家への連絡・使用施設等への連絡及び新型コロナウイルス対策などの対応に追われた一年であった。</p> <p>また、他地域から本村への受入地域変更等により、新規(13校)の受入準備も行っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大によりこちらも全てキャンセルになってしまった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に対する対策を強化し、安心して来訪してもらえる仕組みづくり。(コロナ対策ガイドライン作成配布、全民家を訪問してコロナ対策の説明、感染症対策講習会の実施、入村離村式の動画を作成し会場の振替えに対応、生徒向けに民家からのコロナ感染予防メッセージの作成、コロナ対策を施した民泊を追いかけた動画作成、などを実施) ・SDGsを取り入れた教育プログラム開発。(民泊の中で楽しく行えるSDGsプログラムを作成、旅行後自宅に帰ってから家庭内でも行えるプログラムを開発する。また、生徒の気付きにより民泊体験の中でSDGsを見つけていくタイプ(探求型)のプログラムも作成していく)

今後の取り組み方針

- ・SDGs(持続可能な開発目標)を取り入れ、世界遺産今帰仁城跡や村内の集落や戦争遺構などの地域環境を活かしたプログラムの開発を行い、教育旅行民泊の満足度向上を目指し、リピート校を始め受け入れ校の増加を図る。
- ・SDGsは現在では学校教育にも取り入れられ、SDGsプログラムの実施について説明を行うと、実施したいとの返事を頂く。また、旅行会社も今までと異なった修学旅行体験を求めており、他と違った体験があるかの問い合わせが増えている。今後他地域との差別化ができるようにSDGsを絡めた新規プログラムの開発を行う。
- ・コロナ禍の影響でオンライン対応が進んだことにより、学校現場でもオンライン事前学習が可能となった。受入校と連携してオンライン事前学習を行う事により、今帰仁民泊の満足度を高めリピート率の向上に努めたい。

資金の流れ

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
14,247	14,247	11,397	2,850	0



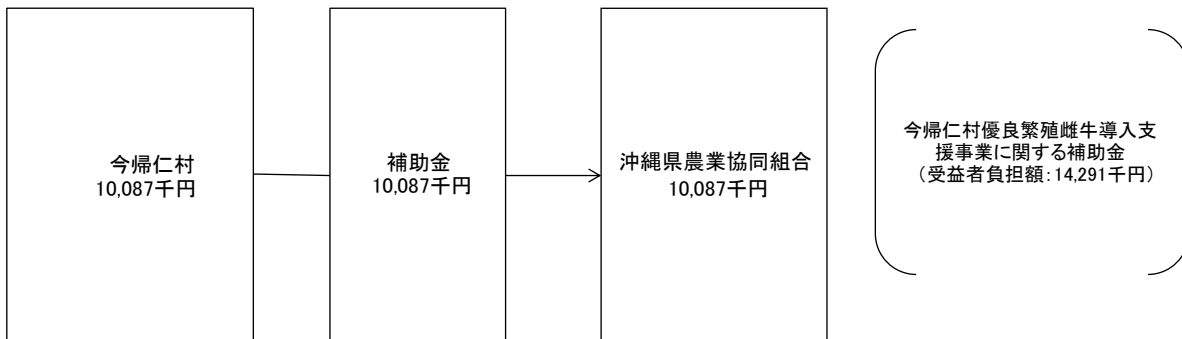
資金の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者である観光協会は、本村の教育旅行民泊を取りまとめており、十分な実績があることから妥当であると判断した。 ・予算規模については委託業者から見積書を徴し、事業目的を達成するために必要な委託費であり、適正であった。 ・用途について、精算時に事業目的達成の観点から内容を確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部署名	経済課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	安定した素牛生産地の確立に向け、素牛のブランド化を推進するため、今帰仁村和牛改良組合による沖縄県農業協同組合からの優良繁殖雌牛(貸付牛)の導入に対して支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,500	7,500	10,500	10,500	10,500
		(b) 予算現額	10,199	7,500	9,989	10,073	10,087
		(c) 増減額(b-a)	▲ 301	0	▲ 511	▲ 427	▲ 413
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	10,199	7,500	9,989	10,073	10,087
		B. 執行済額	10,199	7,500	9,989	10,073	10,087
		うち交付金充当額	8,159	6,000	7,991	8,058	8,069
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	当初計画(21頭)よりも1頭増の計22頭の優良繁殖雌牛を導入し、執行残(413千円)は他事業へ流用した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	今帰仁村和牛改良組合員が沖縄県農業協同組合の貸付牛等の繁殖牛を導入する際に1頭あたり50万円を上限に支援を行う	目標	1頭あたり50万円を上限に支援	1頭あたり50万円を上限に支援	1頭あたり50万円を上限に支援	1頭あたり50万円を上限に支援	
		実績	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭50万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭47万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭48万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭48万円)	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	当初計画(21頭)よりも1頭増の計22頭の優良繁殖雌牛を導入し、1頭あたり50万円を上限に支援を行った。(平均1頭48万円)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合 112%以上	目標	()	(109%)	(113%)	(112%)	()
		実績		111%	104%	105%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	成果目標達成とはならなかったが、導入牛からの子牛と導入牛以外の子牛との価格差は105%と、前年度より向上しており、村内の仔牛の質が向上したと考えられる。また、これまでの取り組みの結果、村内の母牛年齢平均が令和元年度時点(6.11才)、令和2年度時点(6.08才)となっていることから、老廃牛更新に繋がったと考える。 【R2年度セリ結果(R2.4月～R3.3月)】 ・導入牛以外の子牛 平均 644,029円 ・導入牛(H26～R1)の子牛 平均 673,145円						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により、セリ価格が下落しており、当初予定していた頭数(21頭)よりも1頭増となる、計22頭の優良雌牛を導入したが、執行残(413千円)が発生してしまった。 本事業未導入農家者が令和2年度末時点において9名いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度においては、セリ価格の状況を注視しつつ、予算範囲内での最大頭数の導入を図る。 優良雌牛を導入し、更なる牛の品質の向上及び老廃牛更新の為に、引き続き未導入農家やこれまでに導入頭数の少ない農家を優先して実施する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 今後の母牛の品質向上を図るため、導入した牛から産まれた雌子牛のうち、発育良好な雌牛を保留する。 本事業導入農家を選定する場合は、全体の老廃牛更新を促すためにも未導入農家や導入頭数の少ない農家から優先的に行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
24,378	10,087	8,069	2,018	14,291



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先の沖縄県農業協同組合は実績もあり村和牛改良組合とも連携を図れることから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、計画頭数を導入することが出来たため適正規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担は、14,291千円で約5割となっており負担関係は妥当だと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認しており、適正であった。